

特別教室棟1Fトイレ入り口付近。1年生から9年生まで、さらに地域の人たちも一緒に使う校舎は、トイレ周辺をはじめさまざまな場所に交流スペースが配されている。

学校トイレ事例

04

[新築]

新潟県三条市 三条市立大崎学園

新潟県内初の義務教育学校を開校
子どもも地域の人も使いやすい校舎に

一体校舎により
小中一貫教育に注力

三条市では、義務教育9年間で連続した期間にとらえ、児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある教育活動を推進するために、2008年から小学校と中学校が力を合わせて9年間で子どもを教育する「小中一貫教育」に力を入れてきました。

2017年4月からの制度移行により、三条市内すべての小中学校（小学校19校と中学校9校）が併設型小学校・中学校となる小中一貫教育校へと移行しました。併設型は同じ中学校区の小学校と中学校が連携をするスタイルです。

そして、2018年4月、新潟県内で初となる義務教育学校として開校したのが大崎学園です。大崎小学校の隣接地に用地を確保し、校舎の老朽化が進んでいた大崎中学校を移転する形で統合しました。前期課程を1年生から6年生、後期課程を7年生から9年生とした9年間の義務教育学校です。

多様なニーズに
和式トイレを洋式化

前期課程はもともあった小学校の校舎を、後期課程は新築校舎を使います。しかし、新旧の差はあまり感じません。

「新旧の差を減らすために小学校の校舎も2017年から大規模改修をしました」（市教育委員会 阿部博文さん）

両方の校舎は廊下でつながっており、自由に行き来できます。前期課程と後期課程で厳格な校舎の進入禁止などのルールはありません。

「ただ、体育館やグラウンドは前期と後期で使う場所を分けています。体格差があり、運動中の衝突は危険だからです」（前期課程 名塚高明教頭 取材時）

新築校舎の特別教室棟内には、学校が地域の拠点となるよう地域交流室や地域活動室が設けられ、前期課程の子どもたちの放課後の居場所となる児童クラブも整備されています。職員室は全教職員が同室となり、日々の情報交換もスムーズです。



特別教室棟1F女子トイレ。災害時の避難所近くとなるため、すべて温水洗浄便座を採用。



特別教室棟1Fトイレ。地域交流室や武道場近くにあり、人の気配がわかるように入り口は乳白フィルム貼りの強化ガラスで施工されている。



普通教室棟2F男子トイレ。トイレの中には男女それぞれに広めトイレを設置。



普通教室棟2F入り口付近は大きな円形ベンチのあるコミュニケーションスペース。1Fの昇降口から2Fをつなぐ大階段は大崎ホールと呼ばれ、前期・後期課程それぞれの教室棟をつないでいる。



特別教室棟2Fトイレ。入り口はドアレスにするため、クランクにしてプライバシーを確保。地域の人も利用する体育館にも近いため、多機能トイレを設置。



支援教室内トイレ。バリアフリー化が図られ、車いす利用者にとって快適な多機能トイレとなっている。特別教室棟にはエレベーターも設置。



8年2組の教室前。入り口にはガラスが使われ、中の様子がよくわかるようになっている。



教室前の広々とした多目的スペース。可動間仕切りも備え、生徒たちの大切なコミュニケーションの場の一つ。

小中一貫教育導入の検討は全国的にも増えている状況です。

学校に通う児童生徒も、地域の人も、誰もが快適にトイレが使えるようきめ細やかに配慮されているのです。

二つの特別支援教室が専用のトイレをはさむ形で設置されています。また、地域開放エリア近くのトイレは、地域のさまざまな人が利用することもあって、多機能トイレを配しました。利便性にも考慮して、特に1階はすべて温水洗浄便座付きにしています。

石川肇教頭 取材時
寒冷地であることから、建物を外断熱工法とし、地熱を生かして室内の温度を保つクール＆ヒートチューブシステムを採用しているため、冬でも極端な寒さは感じられません。

移転前の校舎は和式ばかりの古いトイレだったため、「新しいトイレになって生徒たちはすごく喜んでくれました」（後期課程 幸さん）
新築校舎のトイレは、もちろん洋式化されています。「家庭において洋式トイレが普及してきており、今後のトイレ改修で洋式化を進めているところ」（市教育総務課 佐藤信幸さん）



前期課程教室棟のトイレも大規模改修に伴い、一部トイレを改修。3F男子トイレ(上)、3F女子トイレ(下)。

大崎学園新校舎の一角には児童クラブがあり、保護者が就労している1年生から4年生までの児童の放課後の居場所になっている。男子トイレには汚垂れ石を設置(上)。児童クラブ専用玄関(下)。

保健室にはシャワールームと別にシャワーパンも設置。足のケガなどの際に洗い流すなどの処置に利用。

保健室内にあるシャワールーム。漏らしたり、嘔吐で汚れた際などに利用する。

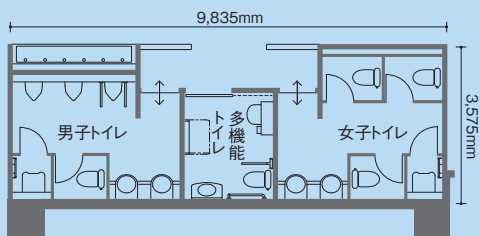
大崎学園 DATA

- 名称: 三条市立大崎学園
- 所在地: 新潟県三条市東大崎1-14-74
- 児童生徒数: 813名(2019年4月)
- 施主: 三条市
- 設計: 大宇根建築設計事務所
- 施工: 校舎棟: 本間・新潟アーバンJV
体育館棟: 水倉・フタバJV
既存校舎改修: 桑原工業
- 竣工年月: 2018年4月

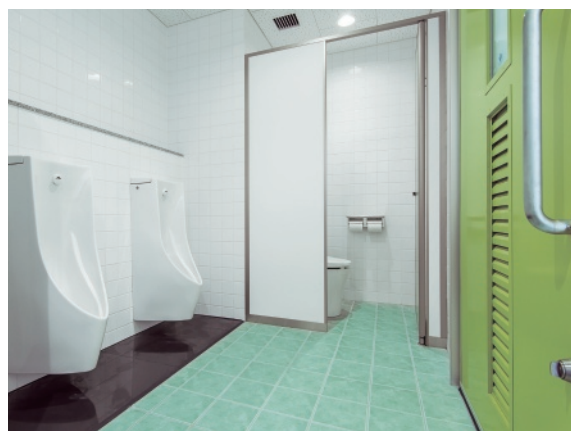


左側が新築校舎、右側が大規模改修された旧大崎小学校校舎。

特別教室棟1Fトイレ



廊下側から入ると、1本の動線が各トイレに振り分けられ、利用者のプライバシーが確保されている。



プール男子トイレ。屋上のプール利用時専用として、トイレと更衣室が男女別に設置されている。



幼児用の大便器は暖房便座を導入。年齢や用途に応じたさまざまな器具設備が整っている。



園児の収容人数が多いため、トイレのブース数をしっかり確保。奥には大人用の個室完結型トイレも。

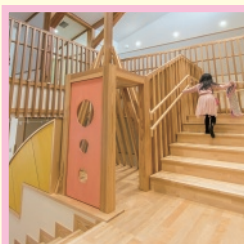


2Fトイレ内にはシャワーパンや汚物流しも完備。

設計: 大宇根建築設計事務所



1Fには男女共用トイレと多機能トイレを併設。教育的視点から男女のサインを設置。



木をふんだんに使った階段の踏み場。遊具と一体化し、園児たちの居場所の一つになっている。

小学校の隣接地に保育所を新築。 幼保小連携の環境を整える

三条市では、子どもの育ちや学びの連続性・一貫性を確保し、子どもが意欲を持って小学校に入学できるよう、幼稚園・保育所(園)と小学校との交流活動を積極的に行うなど、幼保小の連携を図っています。2018年には、旧旭保育

所と旧裏館保育所を統合し、裏館小学校の隣に新しく「裏館保育所」として移転新築されました。
新しい園舎は、定員180名と市内でも規模が大きいことから、トイレのブースも多く設置されています。